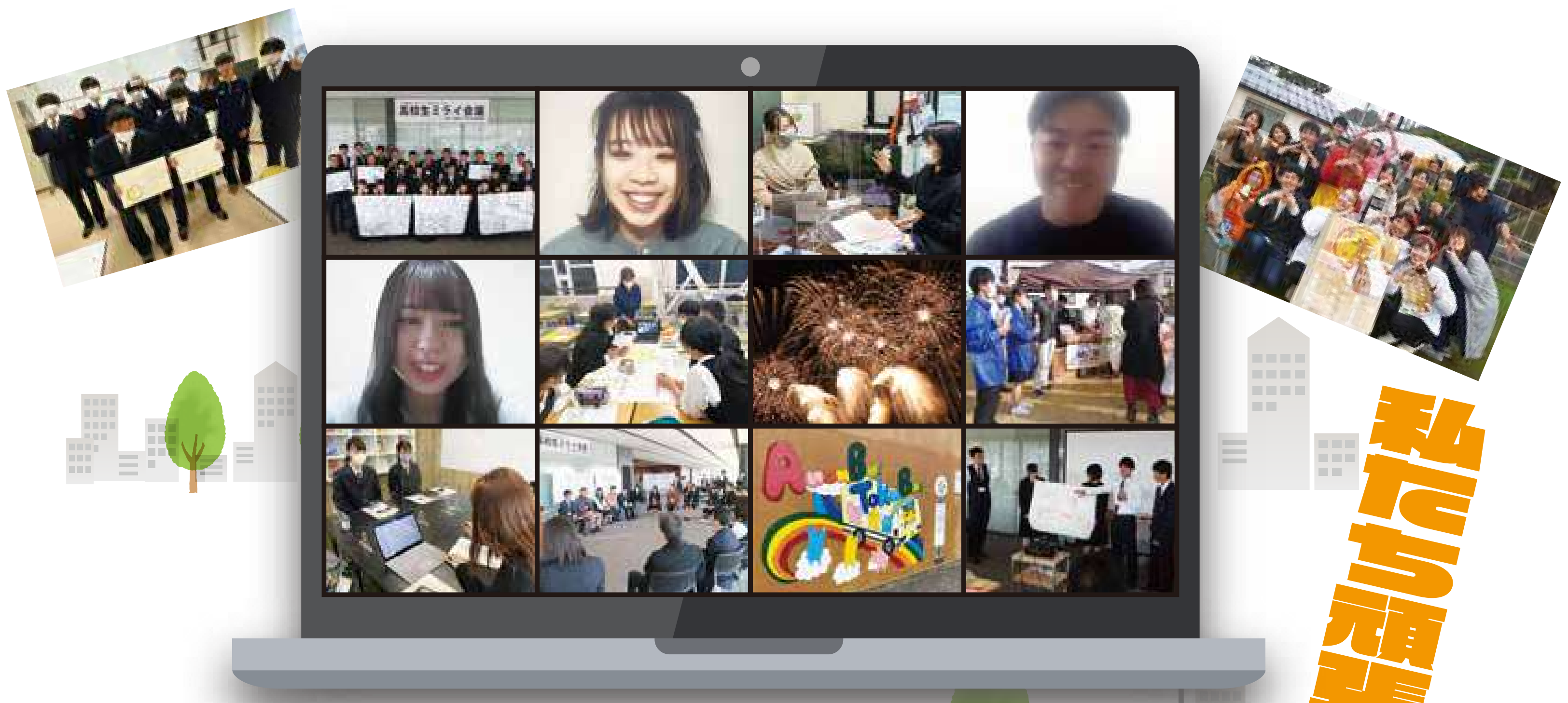
高校生ミライ新聞

発行
あなん未来会議・阿南市
編集
大正大学阿南支局
VOL.3
2021年3月
参加校
富岡東高等学校
阿南光高等学校
富岡西高等学校
阿南工業高等専門学校



私たち頑張っています！

コロナ禍で本当に大変だったこの1年・・
かつて「まちや自分の未来」を語ってくれた
「あの人（先輩）」は「今」「どこで」何をしているのだろうか？
そして様々な制約の中でも学校から地域（まち）に飛び出し、自分たちの
発想・企画・行動力でアクションを起こした現役高校生たちの思いは・・・？
「高校生ミライ会議」は開催できなかったけれど・・
ちょっと先の未来へ踏み出した「先輩」たち、そしてふるさとや自分の未来をしっかりと意識し始めた「現役高校生」の「今」をこの新聞で伝えます。
みんなのミライのために！

2018年
第2回高校生ミライ会議

これまでのミライ会議出席者を直撃『あの人は今』

福知山を舞台にまちづくりに取り組んでいます

井坂彩乃（富西→福知山公立大学）

第1回参加

私は高校生の時から地域や観光に興味があり、地方をもっと元気にしたいとの思いで地域経営学部に進みました。今は関係人口や新規就農に興味が湧いて卒業論文に向けて研究を深めていますが、入学と同時に学生団体「DOKKO」に入り、高齢者や子どもの交流イベントを企画したり、福知山市を紹介するフリーペーパーの制作に関わったことがいい経験になっています。そんな私ですが、高校生の時にはボランティア活動以外に地域と関わることは少なく、「地元のことをあまり知らなかった」と少し後悔しています。地元企業と一緒に活動して高校生と社会の両方の視点を身に付けることができたり、富岡東高校の生徒が描いたバス停のように目に見えるものを残せることで、地域にもっと愛着を持てるようになると思います。

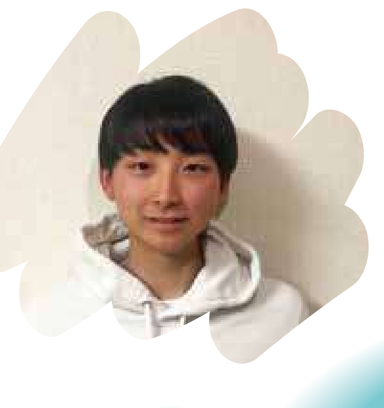
高校3年の時に参加した高校生ミライ会議では、他校の同世代の生徒と「阿南の未来」という共通の議題で話すことができて楽しかったです。最初は「仕事がない」「将来性が見えない」など消極的な意見が出ましたが、話を進めていくと、心の中では誰もが「地元に住みたい」と思っていることがよく分かりました。また、会議の記録をリアルタイムに描く玉有さんの「グラレコ」に感銘を受け、大学でも挑戦しています。地域と関わることはイメージしづらいかもしれませんが、私の経験が後輩の皆さんの進路の可能性を広げるきっかけになれば嬉しいです。

私は、福知山も阿南も大好きなのですが、いろんな地域や人と関わる仕事がしたいなと思っています。そうなれるよう残りの大学生活を頑張ります！ありがとうございました。

徳島で働きたいと思ってくれる姿を見せたい

成松 凌太（阿南工業→大塚製薬（株））

第1回参加



僕は現在、大塚製薬で医薬品を製造する仕事をしています。今の職場を選んだのは、高校まで野球をしていてポカリスエットやカロリーメイトなどの商品にお世話になっていたので、作る側になって多くの人を支えたいと思ったからです。

生徒会副会長を務めていたことから先生の勧めで高校生ミライ会議に出席しました。3年以上前のことなので記憶は曖昧ですが「阿南市に空港を作りたい」と発表した生徒がいたのがとても印象に残っています。僕も普段はあまり考えない「阿南の未来」について自分の意見を発表することができました。高校では先生以外の大人と話すことが少ないので、ミライ会議はとても貴重な機会でした。

社会人になると18歳から60歳まで幅広い年代の方と一緒に仕事をします。高校生の頃とは違い、知識の量や価値観の違い、ジェネレーションギャップなど様々な障壁がある中でコミュニケーションを求められました。ミライ会議のような機会がもっとあれば、様々な人とのコミュニケーション能力が身につくと思います。阿南工業では希望の会社に行って作っている過程を見るインターンシップがあり、私も王子ネピア株式会社さんを見学して自分が働くイメージが湧き、市内の企業がとても身近に感じるようになりました。このような取り組みも阿南市内の高校で積極的に行ってほしいと思います。

僕は、生まれたときからずっと阿南市で暮らしており、これからも阿南で生活したいと考えています。僕が仕事やプライベートではゴルフや野球を楽しんで充実した姿を見せることで、後輩たちが徳島で働きたいと思うきっかけになれば嬉しいです。

あの時の夢を実現したい

松島 文丈（富岡東高校→立命館大学）

第1回参加

現在は、大学のスポーツ健康科学部でスポーツを活用したまちづくりについて研究をしています。小学校3年生からずっと野球を続けており、「野球のまち阿南」の取り組みを知って、大好きな野球で阿南市を盛り上げたいと考えるようになりました。

軟式野球は、硬式に比べてケガのリスクも少なく、幅広い年齢層が楽しめるスポーツです。しかし、プロもなく、甲子園のような華やかなものもありませんが、この魅力的なスポーツを阿南で広め、夢は軟式野球の世界大会を阿南で開催することです。今は、まだ具体的な行動に起こせていませんが、僕が大学で軟式野球を頑張ることで、後輩に軟式野球の楽しさを伝えたり、大学のゼミで阿南をプレゼンのテーマにするなど、身近なところから始めています。今まで阿南を知らなかった友達から、「ニュースで野球のまち阿南のことしてたよ！」と連絡をくれたときはとても嬉しかったです。

ミライ会議に出席した高校2年生の時には、阿南の地域活性化について野球からのアプローチしか考えていなかったので、他の人の様々なアイデアを知ることができ、衝撃的でした。ミライ会議には、普段の生活や授業とはまた違った刺激があり、いろいろな視点から阿南について考えることができるので、後輩の皆さんにもぜひ参加してほしいと思います。

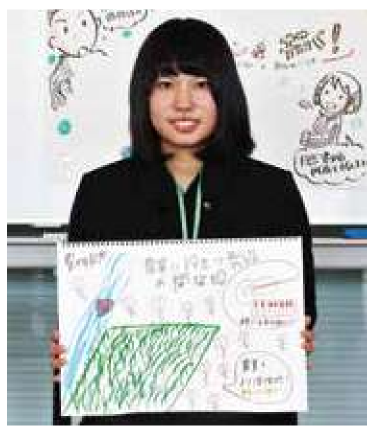
阿南市は、市役所に野球のまち推進課が設けられていることや、アグリあなんスタジアムに室内練習場があるなど、全国的にも珍しい先進的な自治体です。中高の6年間の思い出が詰まった野球のまち阿南市に貢献できる人材となり、色んな人に魅力的を伝え、住みたいと思うまちにしていきたいと思います。

農業への思いが生物の研究へ

新居 ひかる（富岡西高校→岡山大学）

第2回参加

学園祭も頑張っています



私は今、理学部生物学科で植物や動物について学んでいます。幼い時から生き物が好きで、高校の生物の授業だけでなく、もっと詳しく勉強したいと思ったのです。今は1年生なので基礎的な勉強が中心ですが、これからは生物や自然を生かした「新しい農業」について研究していきたいと考えています。大学周辺は都会で田んぼが近くにないのが少し寂しいのですが、県外に出てみて「阿南市は自然がいっぱいで生息する生物の種類も多く、私がやりたい研究にとても適している地域だ」とあらためて強く感じています。なので、将来は地元に帰ってきて、農業の研究ができる企業や市役所で農業に関わる仕事をしたいと考えています。

高校2年生で参加した高校生ミライ会議では「農業を活性化したい」という夢をスケッチブックに描きました。今もその思いは変わっておらず、地元阿南市をはじめ、日本、世界の農業の発展に貢献したいと思っています。ミライ会議では、高校の先生以外の大人や大学生の話を聴いたり、他校の生徒が地元についてどのように考えているかを知ることができました。一見、地元に興味がなさそうに見える男の子が、「退職後に阿南でオシャレなカフェを開きたい」と発表したのがとても印象に残っていて、阿南は「いつか何かやりたい！」と思える「まち」だと感じました。

また、ミライ会議以外でも阿南のPR動画に参加したり、甲子園でチアリーダーを務めたのも私の楽しい思い出ですが、高校生が地域と関わる機会はまだまだ少ないです。もっとまちづくりに参加したり貢献できる機会を作っていくことが、高校生自身や阿南市の未来にとって大事だと思っています。ありがとうございました。

体験型ミライ会議を!!

藤本 越夢（新野高校→日亜化学工業（株））

第2回参加

高校生ミライ会議には生徒会副会長を務めていたのがきっかけで出席しました。現在は日亜化学で、新しい設備を立ち上げる仕事をしています。車が好きでその製品に携わることを魅力に感じ、ここで働きたいと考えるようになりました。入社後は、「ただ言われたことをするのではなく、自分で考え行動できるのが社会人」だと思い、積極的に質問をしたり、行動するように心がけています。また、休みの日には高校生の時から好きなeスポーツをしたり、友達とキャンプするなど公私ともに充実した生活を送れています。

ミライ会議の時は、学校の授業で話し合う機会も少なかったし、人見知りするタイプなのでとても緊張していました。しかし、アイスブレイクの時間に共通の趣味の人を見つけて打ち解けたことで、会議でも自分の意見を言えたのではないかと思います。地元で働いている人の話を聞かせていただきましたが、フランスで修行をされたという佐竹さんの話が印象的でした。夢を追いかけるということは素晴らしいと単純に考えていましたが、いざ自分が社会人になってみると夢を持って働くことの難しさを痛感しました。ミライ会議では他の人の話を聞けることも長所だと思います。阿南市に壁画があることを初めて知ったり、高校生のうちから定年後を考えている同世代がいることにも衝撃を受けました。ミライを考えることは、学生生活や今後のモチベーションを上げることにつながります。また、自分の考えをまとめたり、相手に伝えたりする力が養われる場にもなっています。ぜひ後輩の皆さんには、学校の中だけでなくこのようなイベントに参加して視野を広げてほしいです。

今後の高校生ミライ会議は、フィールドワークを組み合わせることを提案します。例えば、みんなで壁画を見に行ったりSUPをするなど、実際に体験することで阿南の未来についてより深く考えたり、交流が深まるのではないでしょうか。これからもそんな高校生ミライ会議が続くことを期待しています。

eスポーツで全ての人が輝けるように

四宮 昌幸（阿南高専電気科4年）

第3回参加

昨年のミライ会議には、友人に誘われ参加しました。特に印象的だったのは、阿南市内の企業の方がきてくださり、会社や地域に対する想いを話してくださったことです。それがきっかけである企業の方と意気投合し、ブラザーって呼んでくれるぐらい仲良くなることができました。グループに分かれての意見交換では、普段違う分野の勉強をしている学生と話をすると、同世代でも全然考え方が違って、とても新鮮でした。

現在は、学校でイノベーション実習という会社を立ち上げる授業があり、eスポーツの会社の社長をしています。ゲームを作るには回線がとても大事で、普段の授業で学んだことを活かすことができています。障がいや病気でスポーツができない人にeスポーツを通じて、自分を輝かせる場を提供したいと思い、福祉施設やマチアソビで様々な人に体験していただきました。この授業も高専だけでなく、様々な学校や企業と一緒に行うことで、よりいいものができるのではないかとミライ会議に参加して思いました。高校生だけでは、地域内で関係を作ることは難しいので、先生にアシストしていただき、つながりを作ることができれば、様々な人の意見が取り入れられて、授業じゃなくて本当に起業できるんじゃないかな？そんな楽しい地域になっていってほしいです。

高専卒業後は、まだまだ色んなことを勉強したいと思っています。ずっと徳島にいたので、一度都会で生活してみたいという思いもあり、県外の大学に進学したいと考えています。それから帰ってくるか県外に就職するかは、まだ悩んでいますが、徳島を離れても、徳島のためにできることをやっていきたいです。

阿南市の現役高校生の取組紹介

高校生は地域から何を学ぶのか!!

今、Society5.0 や SDGs の未来・・・など、将来予測が難しい社会で生きる力が必要といわれています。高校の「総合的な探求の時間」では、社会とのかかわりの中で自らが問いを見い出し、その課題を解決する力の育成を目指しています。学校以外の「まち・人・自然・産業」との新たな出会いが、自ら切り開く未来の原動力となるのです。地域（まち）で始まった高校生たちの爽やかな地域創生への活躍をご紹介します 。

阿南光高校

今回の企画は大成功!!
卒業生に贈る自分たちが作った花火

産業創造科（2年）
尾田 尊　尾崎 寿哉

僕たちは、探究の時間を活用し、新野町にある岸火工品製造所の岸さんと阿南光高校を卒業する先輩たちのために花火を上げる企画をしてきました。今年の3年生は総体などの行事が新型コロナウイルスの影響で、行うことができませんでした。そんな先輩たちの思い出となり、明るく次のステップに踏み出してほしいと思い、カラフルな花火にリズミカルな曲をのせたミュージック花火を作ることにしました。曲は、班内で話し合い、イメージにぴったりのBTSのdynamiteに！実際に花火を作り始めると、花火の玉の種類や0.01秒単位で上げるタイミングを決めるなど花火の奥深さ、難しさを実感しました。

打ち上げの日は、見に来てくれた卒業生の満足そうな顔を見て、今回の企画が成功したんじゃないかなと思いました。インスタグラムにも花火の映像をたくさん載せてくれて、卒業の思い出の一つを僕たちがつくることができたと自負しています。僕たちが卒業する時も花火を上げてくれたら嬉しいな～と花火を見ながら考えていたので、岸さん、後輩の皆さん、よろしくお願いします!!

岸さんをはじめ、地域の方と一緒になって花火を上げたことで、自分たちも地域でなにかできるのではないかと思い始めました。今後も、岸さんや新野町の方々、地域の企業の方と関われる機会があれば、共同して何かを作り上げたいです。また、クラウドファンディングを通して、顔も知らない誰かが僕たちのことを応援してくださったことに、とてもほっこりした気持ちになる一方で、もっと頑張らなくてはいけないと気が引き締まりました。

僕たちも、地域の高齢者の手助けができるような活動や、ボランティアにも積極的に参加していくことで、誰かを支えることになり、社会に還元していきたいです。

今回のプロジェクトを通して、今まで将来どのような仕事がしたいかイマイチ想像がついていませんでしたが、みんなでどのような花火の演出にするか話し合うことが楽しく、また成功したことで自信となり、企画をするような仕事に興味が湧き始めました。残りの高校生活も、卒業後も新野町との出会いを大切にし交流を継続していきたいです。そして、地域や人の役に立てるようになりたいと思います。

tural Anan Hikari High S

マンゴー派とリンゴ派が対決
みんなで作ったカレーは最高

産業創造科（2年）
小笠 優翔　勇 叶羽　池添 博人
西浦 秀悟　赤井 司　竹中 堅慎

―きっかけは？

「総合的な探究の時間」で新野キャンパスでのマルシェを企画し、地元の特産品を使用して防災やエシカルの視点を取り入れた防災カレーを開発する班が立ちあがった。そして、その後、新野で卒業生に花火を贈る企画・・・「光てらせプロジェクト」が生まれ、僕たちのカレーはクラウドファンディングの返礼品にもなった。

―活動内容は？

「フルーツ・魚・芋・藍」の4グループに分かれて役割分担した。毎週火曜日に2時間、折野さん(タカラ食品)と木元さん(ウト・ウーク)が学校の調理室に通ってくれて本当にありがたかった。防災カレーのパッケージやラベルも自分たちで考えて製品化した。

―苦労したところ、楽しかったところは？

リストアップした食材が多くて選ぶのが大変だった。フルーツ班では「マンゴー」か「リンゴ」かで、もめた。(笑)

―やってみた感想は？

自分たちが作ったものを多くの人が買ってくれて嬉しかった。「まちマルシェ」では大量に用意したので出前で売り込みに行ったのもいい経験になった。阿南の食材の豊富さにびっくりしたが、タケノコとカレーのマッチングは最高だった。アンケートをみて改良を重ねたが、あまり美味しくないと言われた時は悲しかった。(笑)

―まちづくりに関わった感想は？

授業ではできない体験や出会い、達成感があった。他の生徒にもぜひ勧めたい。

―今後やりたいことは？

例えば、桜を植えたり、魚の養殖など自然を生かした農林漁業の分野で「光高校ならでは」のプロジェクトをやりたい。3年でも「総合的な探求の時間」があるので、今から何をやるか楽しみ。

―市内の企業との繋がりは？

企業と一緒になってもう一度「光のまち阿南」を盛り上げたい。

―今後の進路、将来の夢は

大塚食品に入ってカレーを作りたい。誰もが知ってるユーチューバーになりたい。進学したい。公務員になりたい。日亜化学へ就職したい。

元気一杯の光高校男子生徒たちでした。「光てらせプロジェクト」は今回インタビューした8人以外にも多くの生徒が参画しました。これからもますます盛り上がっていきそうです。(鈴江)

富岡東高校

阿南を持続可能なまちにするために

舘野結衣（2年）

私は、ESD(Education for Sustainable Development)の授業で地域おこし班として活動しました。ESDでは、SDGsの17目標の中から、自分の関心があるものを選択します。私は、将来も徳島で暮らし、仕事をしたいと考えているので、11番の「住み続けるまちづくりを」をテーマに決めました。今まで、地域との関わりがあまりなかったため、班員とSudatchを訪れ、大正大学の鈴江さんから「あなんまちマルシェ」のことを教えていただきました。

「あなんまちマルシェ」とは、阿南市内外のお店が、阿南駅周辺に設けられた会場で、ハンドメイド雑貨やスイーツなどを販売するイベントです。私たちは、会場の飾りつけや清掃のお手伝い、来場者へのインタビューを実施しました。インタビューでは、①普段から商店街を利用するか、②まちマルシェをきっかけに商店街に興味を持つようになったかの2つの質問を100名に行いました。①は半分以下でしたが、②はほとんどの人が興味を持つようになったという回答でした。また来場者には、市外の人も多く、まちマルシェが外から人を呼び込む要因になっていることが分かりました。

今回マルシェに参加してみて、来場者が店主と会話をできるきっかけになり、地域のふれあいの場として機能していると思いました。また、このようなイベントの企画に加わる楽しさを感じ、これからも積極的に参加していこうと思います。

デザインの力で街を楽しく！

神崎真菜実（2年）

私は美術部で部長をしており、今回フジグラン阿南の「お絵描きバス停」を描かせていただきました。このバス停は、歩道が狭いためポール型の標識を置くことができず、壁に案内板が貼り付けられただけのとても分かりにくいバス停でした。そのため、バス停の存在感を向上させることと、より身近に感じてもらうことを目的に、壁画で表示することになり、富岡東高校と中学校の生徒からデザイン案を募り、その中から選ばれたデザインを美術部がバス停に描いたのです。

最初はこれまで壁画を描いたことがなかったため、私たちで大丈夫なのかとても不安な気持ちでいっぱいでしたが、近くを通りかかった地域の方から応援していただき、だんだんやる気が出てきました。そして、描き始めて見ると、とても楽しくあっという間に縦2メートル、横4メートルの壁画を美術部の仲間と完成することができました。

お絵描きバス停を描くことを通して、私たちの思い出になったことはもちろん、いろいろな人に喜んでもらえたことがとても嬉しかったです。高校生がまちに絵を描くということでまちに活気を与えることができると感じたので、これからも、地域内のデザインに関わっていきたいと思いました。

Anan Bus
Toku Bus

富岡西高校

阿南の情報発信は私にお任せください

渡部 沙織（2年年）

私は、富岡西高校に通いながら、商人塾や大正大学とのリモート交流会、あなんまちマルシェでコスプレをするなど様々な活動に参画してきました。その中でも商人塾で学んだことが、SDGsにつながる自由研究を行う授業でとても役に立ちました。商人塾は、まちづくりに意識の高い商店主や団体の代表者が、住んでいる地域の魅力を再発見するワークショップです。話し合いでは、一人ひとりの言葉の重みが違うと感じました。普段の授業では、「ええんちゃう」で終わってしまうことを、どのように実行するかまでを考えていきます。学校の授業ではなかなか学べないお金の話や、ターゲットをどのように設定するかなど、実行するために必要なことが具体的に考えられており、大人の方の行動力に感化されました。

そこから、私もインターネットだけで情報収集をするのではなく、生の声が聞ける機会を求め、地域に飛び出すようになりました。活動してみると、素の状態の自分でも褒められるということに驚きました。私自身が感じたことを話すだけで、地域の方から「いつもはあまり聞けない若者の意見を聞くことができた」とか「ジェネレーションギャップでいい化学変化が起きた」と言っていただきました。年齢に関係なくお互いが先生のような存在となることができたことでwinwinの関係が築けたのではないかと考えています。

今後は、商店街や阿南市のPRを私自身がしていきたいと思っており、富岡商店街に新しくできたカフェNuuNの宣伝ポスターを作成したり、文化祭でコラボして出店できないか思案中です。また、イベントのレポーターやまちで頑張っている人の紹介などもしてみたいです。

私は、人前に立つことが好きなので、将来はアナウンサーを目指しています。アナウンサーになるためには、発声練習なども大切ですが、話すことを理解しておく必要があります。大学に進学し、知識を蓄えて自分の言葉でしっかりと伝えられるような人になり、地域のために役に立つ人として帰ってきたいです。

阿南高専

空き家を学びの場に

建設コース 多田研究室
4c中川颯太　3c泉 遥香
2c田中亮輔　2c藤川大輝

―このプロジェクトの名前はアキバ？

「空き家を学びの場に」という思いと、東京の「秋葉原」をかけています。今も昔もオタクが多いんです。高専にも・・(笑)

―このプロジェクトのきっかけは？

「移住者向けに空き家を活用して、徳島での新しい暮らしを提案する」徳島県のコンペがあることを多田先生が教えてくれて応募しようということになりました。プロフェッショナル部門にエントリーして賞金40万を狙っています・・いやいや学ぶのが目的です(笑)

―具体的な構想は？

高専の旧宿舎「大坪荘」を改修して、移住予定者が宿泊しながらリフォームの仕方や楽しさをじっくり学べる施設にします。座学と工作ができる部屋を作り、地元の大工さんから丸ノコの使い方などプロのコツを伝授してもらいます。移住希望者がお試しで泊まるというよりは生活を体験するというイメージで、「使えるものは使う」というSDGsの実践も目指しています。

―どんな活動をしましたか？

阿南に移住してきた3人の方に「どのような家に住みたいか」などのインタビューをしました。その意見をもとに、ぜひこの「あきば」に来てみたいと思ってもらえるような間取りや設備をみんなでプラニングしています。

―やってみてどうでしたか？

(泉さん)他学年の先輩や後輩と一緒に活動できるのは新鮮で、教わることも多くて面白い。クラスで1／3が女子です。

―4人のチームワークは？

先輩にもしっかり意見が言える関係です。(笑)

―町の人や他の高校生に伝えたいことは？

徳島県には「地元には何もない」と答える人が多い。いいものはあるはずなんで・・もっと地元に、誇りを持って欲しい。

―これからの作業は？

高専OBの工務店の力も借りながら、来年からこのプロジェクトの実践に取りかかり、広く情報発信もしていきたい。(中川くんは卒業研究で、3人も引き続きサポートします)

―将来の夢は？

(リーダーの中川さん)将来は戸建て住宅にこだわった仕事をしたい。県外に出て都会で経験も積みたい。でも県内なら阿南高専と関わりができて面白い。

学年が違っても家族のように仲のいい4人組でした。「チームあきば」の「おうち」が完成したら、みなさんぜひノコギリとトンカチを持って駆け付けましょう(鈴江)。

ふるさとで活躍する先輩と若者を応援する阿南市からのメッセージです。

「牟岐みらい会議」で若者とまちをつなぐ

富岡西高校卒　中山 拓真

僕は高校3年の5月頃まで卒業後はフリーターになろうと思っていました。当時、「牟岐町で音楽しながらスローライフを送る」という漠然とした夢があり、曲を作って発信し、いつか〝バズる〟ことを期待しつつ、各地で活躍中の人たちに出会う旅をしたかったのです。しかし気が付けば牟岐町役場に入庁していました。(音楽は地元でもできるし、働くことで大人のリアルを知って経験を積むことが夢への近道じゃね!?と思ったのが動機)現在、産業課で商工や鳥獣被害等を担当し、コロナ禍にも悪戦苦闘しています。

一方、令和2年に新成人となり、同級生と「ふるさと牟岐町に何か恩返しをしたい」と相談し、「牟岐みらい会議」を町に提案しました。そして、令和3年2月、牟岐町で活動する大学・学生団体・個人学生の事例発表会をオンラインで開催。3月21日には牟岐町出身の若者と牟岐町で活動する大学生が「牟岐町の近い未来を創造し、自分たちに何ができるのか」を考えるワークショップを実現することができました。

この2年間、若者らしい柔軟性を失った感はありますが(笑)、学びの多い日々を過ごしています。田舎にあるコンテンツや選択肢は限られていますが、自分次第で突破できます。若いからこそ「自分らしさ」を考え、その先に「地元徳島で生きる」という選択ができれば嬉しいですね。牟岐町に行ってみたい！と思う人・・・お待ちしています。

ふるさとの宝は「ひと」

阿南市ふるさと未来課長　柏木 章宏

二〇十七年に始まった「高校生ミライ会議」、これまで過去3回の開催を見守ってきました。人生の大きな選択をする時期にある市内の高専・高校生が、学校の垣根を越えて一堂に会し、「阿南の未来」をテーマにして自由に意見を交わすことができる、これまでになかった貴重な機会に育ってきました。これまでに参加してくれた皆さんが、今も熱い想いを持ち続け活躍しているのに触れ、大変嬉しく思います。

今年はコロナ禍の影響で会議を開催できず、残念ながら皆さんの元気な笑顔を見ることはできませんでした。そんな中、高専・高校の先輩方が中心となって、「コロナに負けるな!!あなん未来の宝　学生応援プロジェクト」を立ち上げ、県外で頑張る阿南ゆかりの学生さんを応援していただきました。ふるさと阿南は、どこに行っても皆さんを応援しています。そのふるさとを支えるのは「ひと」であり、「ひと」はふるさとにとっての大切な宝物です。

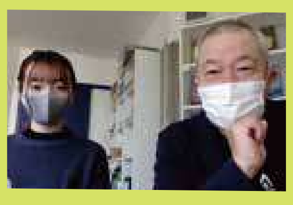
皆さんの原点はふるさとです。この「高校生ミライ会議」という素敵な出会いを通して生まれた「縁」を大切に、卒業して社会人になっても、ふるさとを想う心を忘れず大きく羽ばたいてください。そして、皆さんの熱い想いを、ぜひ未来の阿南市につなげてください。応援しています。

編集後記

大正大学阿南支局長　鈴江 省吾

「コロナで糸を切らせてなるものか」と大学や企業で頑張っている姿を追いかけました。ふるさとや後輩への思い、高校でやりたかったこと、これからの将来・・・、リモート画面で明るい笑顔が輝きます。もしミライ会議の同窓会が実現すれば、きっといろんなアイデアが飛び交って「やろう！」と誰かが立ち上がり、そんな先輩たちに現役高校生は「それより私たちのプロジェクトを手伝ってよ」というかもしれません。

今回、コロナ禍で大変な状況の中、取材にご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。この新聞が「高校生・卒業生・地域・企業→未来」をつなぐネットワークの新たな1ページになれば幸いです。



大正大学地域創生学部3年
富岡西高校卒業　中野 美優

今回の取材で印象的だったのが、かつてのミライ会議参加者から「地元企業や他の高校生ともっと交流をしたかった」という声が多かったことです。これまでよりも社会と近い存在となったからこそ、高校から様々な人と対話する重要性を感じているのかもしれません。

また、現役の高校生からは、地域内で活動をすることで、「自分の素の状態を受け入れてくれる場所」「地域の人から応援してもらえてうれしかった」などの話を聞かせてもらい、勉強や部活以外にその人の魅力を最大限に活かすことができるのは、学校でも家庭でもなく、地域の中だと思いました。そして地域の課題を解決するには、大人だけでなく高校生の力が必ず必要です。

高校生が地域課題を自分事としてとらえ、地域の方とともに社会実装していけるようなまちになってほしいと思います。